様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 ２７ 日現在

機関番号：１４３０１
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2014～2016
課題番号：２６５８０００７

研究課題名（和文）ボン教範疇論の研究：仏教アビダルマ思想との比較を通じて

研究課題名（英文）A Study on Bonpo Onthology

研究代表者
熊谷　誠慈（Kumagai, Seiji）

京都大学・こころの未来研究センター・特定准教授

研究者番号：８０６１４１１４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題では、14世紀のボン教徒テトゥン・ギェルツェンペルの作成した宗義書Bon sgo gsal byedの、アビダルマに関する箇所を精読し、ボン教アビダルマの根本テキストであるSrid pa’i mdzod phugの11章（十二処）の全文を精読した。加えて、10章（五蘊）のうち、色蘊、受蘊、想蘊の節を精読した。結果、仏教とボン教の五蘊や十二処と比較考察した。結果結果、ボン教の五蘊説および十二処が、ヴァスバンドゥ著『五蘊論』や『倶舎論』、アサンガ著『大乗阿毘達磨集論』など、仏教思想から大きな影響を受けていることが判明した。これらの成果は、国内外の学会で発表し、英文論文として公表した。

研究成果の概要（英文）：In this research project, I read though the chapter on Abhidharma in the doxography Bon sgo gsal byed composed by the Bon master Tre ston rGyal mtshan dpal (14th cen.). I also read through 10th capter (on five aggregates) and 11th chapter (on twelve sense bases) of the Srid pa’i mdzod phug which is a representative bonpo Abhidharma treatise.
Then, I compared Buddhist theories of five aggregates and twelve sense bases with those of Bon tradition. We finally proved that Bonpo theories of five aggregates and twelve sense are influenced by Buddhist thoughts found in Vasubandhu’s Pancaskandhaka and Abhidharmakosa, Asanga’s Abhidharmasamuccaya and so on. The results of this project were presented in both domestic and international conferences and published as English papers.

研究分野：仏教学

キーワード：ボン教　アビダルマ　五蘊　十二処

１．研究開始当初の背景

ボン教研究は、一次原典へのアクセスが非常に困難であったことから、特に思想的側面については研究が手つかずの状態であった。1980 年代以降、Samten Karmay（*The Great Perfection: rDzogs chen*, Leiden/ New York: E.J. Brill, 1988）などが、ボン教の秘教的側面に関する研究を進めてきたが、その他の側面については解明がほとんど行き届いていなかった。

こうした中で研究代表者は、ボン教に大乘仏教との類似性が存在することを発見し、ボン教と、大乘仏教の代表的存在である中観思想との比較研究を行った（*The Two Truths in Bon*, Kathmandu: Vajra Publications, 2012 等）。調査の結果、バーヴィヴェーカの『思択炎』や、チャンドキールティの『入中論自注』を引用するなど、ボン教側が仏教の理論を吸収した上で、独自の理論を構築していったことが判明した。

その後もボン教文献を渉猟し続ける中で、研究代表者は、ボン教には小乘仏教（　部派仏教）と相似する側面も存在することを見出した。中でもボン教の有する範疇論が、仏教のアビダルマ思想と密接な関係にあるとの感触を得た。そこで、ボン教文献の精査を踏まえて、仏教アビダルマ思想からの影響についても吟味しつつ、ボン教の基礎的範疇論の構造を解明するという着想に至った。

２．研究の目的

以上の背景から、本プロジェクトでは、五蘊・十二処・十八界、五位七十五法などの基礎的範疇論に関して、主要ボン教文献の学説を体系立てて整理し、インド・チベットの仏教思想との比較を通じて、ボン教アビダルマ範疇論の特徴、および仏教からの影響を明らかにすることを目的に、研究を開始した。

３．研究の方法

具体的には、(1) 11 世紀の *Srid pa'i mdzod phug*（ボン教最古のアビダルマ文献)、(2) *Srid pa'i mdzod phug* の注釈文献群、(3) *Srid pa'i mdzod phug* の概論書群、(4) 14 世紀のテトゥン(Tre ston rGyal mtshan dpal)著『ボン門明示』(*Bon sgo gsal byed*)という 4 種の文献群を精査した上で、[A] 当該文献の範疇論をそれぞれ整理し、[B] 仏教のアビダルマ思想からの影響を検証するという文献学的方法を採用した。

さらに、上記文献の校訂テキストおよび試訳の完成を副次的目的とした。

４．研究成果

○ボン教のアビダルマ文献精読

研究期間中には、*Srid pa'i mdzod phug* (ボン教の『倶舎論』に相当)の第 10 章（五蘊)、第 11 章（十二処)、第 12 章（十八界）の批判的校訂テキスト、ならびに試訳を作成した。

なお、同書はシャンシュン語とチベット語の両言語が併記される。シャンシュン語原典とチベット語訳を比較する中で、チベット語訳が直訳ではなく、意訳であることが大よそ判明した。しかし、シャンシュンン語文法を解明するまでには至らなかった。シャンシュンン語は未解読の言語であるため、同書は、ボン教思想の解明のみならず、シャンシュン語解読のためにも重要なテキストと言える。

また、ニャンメー・シェーラプギェルツェン (mNyam med Shes rab rgyal mtshan,

1356-1415)著 *Srid pa'i mdzod phug kyi 'grel ba 'phrul gyi sgron me* という注釈書の試訳も作成し、*Srid pa'i mdzod phug* の読解の補助に使用した。

さらに、テトゥン・ギェルツェンペル(Treston rGyal mtshan dpal, 14 世紀)著『ボン門明示』(*Bon sgo gsal byed*)のアビダルマのセクションの試訳も作成し、*Srid pa'i mdzod phug* の読解の補助に使用した。

〇仏教アビダルマ文献精読

ボン教のアビダルマ文献との比較対象として、インド仏教の学僧ヴァスバンドゥ(Vasubandhu)著『倶舎論』および『倶舎論自注』や、『五蘊論』の精読を進めた。

〇ボン教と仏教のアビダルマ理論の比較

ボン教にも、五蘊、十二処、十八界という基礎的な存在論が存在しているという事実が分かったため。仏教の五蘊、十二処、十八界とそれぞれ比較を行った。

【一年次】

一年次には、ボン教の五蘊説および十二処が、ヴァスバンドゥ著『倶舎論』や『五蘊論』、およびアサンガ著『大乗阿毘達磨集論』など、仏教思想から大きな影響を受けていることが判明した。その中でも、五蘊に関しては、特にヴァスバンドゥの『五蘊論』からの影響が強いことが判明した。

まず、五蘊の対立概念たる無為法について、ボン教は四無為説（虚空・択滅・非択滅・真如）を採用するが、これは『五蘊論』と一致する。（なお、『倶舎論』は三無為、『大乗阿毘達磨集論』は六無為を採用）

ボン教では、「色蘊」の数を、四大・五根・五境・無表色の計「１５」となしていることが分かった。仏教では「色蘊」の一般的に「１１」であるが、ボン教では四大を加えて「１５」としている点が仏教と異なるという事実が判明した。

また心不相応行の数が１４とされている点は、『倶舎論』や『五蘊論』と合致する（なお『大乗阿毘達磨集論』では２１とされる）また、１４の不相応行の中に、異生性を挙げている点で、『倶舎論』よりも『五蘊論』に類似していることが判明した。

以上の考察結果については、第 17 回国際仏教学会（International Association of Buddhist Studies, 8 月 22 日，ウィーン大学）にて「Bonpo's Absorption and Development of the Buddhist Theory: with a focus on Abhidharma Theory」という題目にて発表した。

【二年次】

二年次には、行蘊を中心に研究を進めるとともに、五蘊に関する仏教からの影響について、研究を進めた。特に心所について、仏教との関係性を分析した。

ボン教では心所の数は５１とされていることから、『五蘊論』や『大乗阿毘達磨集論』など唯識系のアビダルマの数に一致することが分かった。（『倶舎論』では４６）

ただし、心所の総数は同じであっても、中身は一部異なることが判明した。

五遍行心所、五別境心所、五不定心所については、仏教と一致することが分かった。

他方、十一善心所、六根本煩悩、二十随煩悩心所については中身が一部異なることが判明した。

また、末那識やアーラヤ識を認める点も、唯識的と言える。

以上のように、ボン教のアビダルマは、大枠としては唯識的なアビダルマ、特にバスヴァンドゥの『五蘊論』の理論に近いが、全てが一致するのではなく、相違する部分も多く存在していることが分かった。

以上の成果は、日本印度学仏教学会第 66 回学術大会（2015 年 9 月 19 日、高野山大

学）にて「ボン教アビダルマに影響を与えるインド仏教思想：五蘊説を中心に」という題目にて口頭発表した。

また、英文単著論文“Bonpo Abhidharma Theory of Five Aggregates” (Journal of Indian and Buddhit Studies, Vol. 64-3, pp. 150-157)を出版した。

【三年次】

三年次は、想蘊についての仏教思想からの影響を重点的に分析した。

ボン教では、想を「小想」(rgya chung ‘du shes)、「大想」(rgya che’i ‘du shes)、「無量想」(dpag med ‘du shes)の三つに区分した上で、三種の想をそれぞれ五つに細分することが分かった。

そのうち、小想は、欲界の想であるとして、五道（地獄・餓鬼・畜生・人・天）に対応させ、五つの細分が設定される。

大想は、色界の想であるとして、色界の四禅に対応させる。第四禅については、五浄居天以外の三天（無雲天・福生天・広果天）と、五浄居天（無煩天、無熱天、善現天、善見天、色究竟天）とに区分し、計五の大想の細分を設定していることが分かった。

無量想は、無色界の想であるとし、空無辺処、識無辺処、無所有処、非想非非想処、一切知者とに対応させ、計五種の無量想の細分を設定していることが分かった。

仏教側の文献については、バスヴァンドゥの『五蘊論』は三想を設定するが、三界との関係性については記述しない。

また、『五蘊論』のスティラマティ注では、無量想に空無辺処と識無辺処のみしか含めない。

他方、『大般涅槃経』では無量想に無色界の 4 種の処を全て含めている。

この点について 2 つの可能性が考えられる。

(1)『五蘊論』の三想説をボン教が独自に発展させ、『五蘊論』のスティラマティ注とは異なる形で、三想と三界との対応関係を設定した可能性。

(2)『大般涅槃経』などの「三想＝三界」説を参照した可能性。

他方、ボン教独自の解釈としては、以下の 2 点がある。

(a)大想を色界の初禅～第四禅の四つに細分したうえで、第四禅を三天（無雲天・福生天・広果天）と五浄居天との二種に区分けし、「五つの大想」という区分を設定する点。

(b)無量想に、一切知者の想を含める点。

以上の成果は、日本印度学仏教学会第 67 回学術大会（2016 年 9 月 3 日、東京大学）にて「ボン教における「想蘊」の概念：ボン教アビダルマに影響を与えるインド仏教思想」という題目にて口頭発表した。

また、英文単著論文“The Bonpo Abhidharma Theory of Perception (*Saṃjñā*)” (*Journal of Indian and Buddhist Studies*, Vol. 65-3, 2017, pp. 1185-1192)を出版した。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計２件）

① Seiji KUMAGAI “Bonpo Abhidharma Theory of Five Aggregates,” *Journal of Indian and Buddhist Studies*, Vol. 64-3, 2016, pp. 150-157.（査読有）

② Seiji KUMAGAI “The Bonpo Abhidharma Theory of Perception (*Saṃjñā*),” *Journal of Indian and Buddhist Studies*, Vol. 65-3, 2017, pp. 1185-1192.（査読有）

〔学会発表〕（計３件）

① Seiji KUMAGAI “Bonpo’s Absorption and Development of the Buddhist Theory: with a Focus on Abhidharma Theory,” *17th International Conference of the International Association for Buddhist Studies*, Wien: University of Wien, 22nd August 2014.

② 熊谷誠慈 「ボン教アビダルマに影響を与えるインド仏教思想：五蘊説を中心に」, 日本印度学仏教学会, Vol. 66, 和歌山：高野山大学, 2015 年 9 月 19 日.

③ 熊谷誠慈 「ボン教における「想蘊」の概念：ボン教アビダルマに影響を与えるインド仏教思想」, 日本印度学仏教学会, Vol. 67, 東京：東京大学, 2016 年 9 月 3 日.

〔図書〕（計１件）

① 熊谷誠慈「ボン教の歴史的概要」,『仏教史研究ハンドブック』, 京都：法蔵館, 2017, pp. 46-47.（共著）

６．研究組織

(1)研究代表者

熊谷　誠慈（KUMAGAI SEIJI）

京都大学・こころの未来研究センター・特定准教授

研究者番号：８０６１４１１４